

平成28年度 港区立青山小学校 校内研究について

校内研究の概要

1 研究主題

自分の思いや考えを表現できる児童の育成

～「話すこと・聞くことを」を通して～

2 主題設定の理由

昨年度は、国語科や体育科の研究を通して「相手意識を持ち、学び合い、認め合う児童を育てる」ことを重点に授業実践を行った。その結果、友達の考えを聞くことが好きになった児童は増えたが、自分の考えを表現できるようになった児童が増えたかどうか明らかになっていないことが児童アンケートや教師側から課題として挙げられた。そのため、今年度はすべての児童が自分の考えを表現できるようになるための指導方法の工夫改善に取り組むたいと考えた。

また、発表の場で、発言した児童の考えを受けて自分がどのように考えるのかを明確に表現できるようにするため、「広げる→深める→高める」の学習過程の確立を目指していく必要があると考え、すべての児童が自分の考えを表現できるようになるための指導方法の工夫改善に取り組む必要がある。

3 研究方法

全教員が分科会テーマに沿って年間1回以上の授業研究を提案し、協議会等で検証を行うことで研究を深める。

4 講師

秀明大学教授 福永睦子先生

研究構想図

<研究主題>

自分の思いや考えを表現できる児童の育成

～「話すこと・聞くことを」を通して～

<研究仮説>

目的意識をもった交流活動を通すことで、自分の考えを明確に表現できる児童が育つであろう。

<目指す児童像>

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会	あすなる分科会
自分の考えをもち、相手に伝わるように話せる児童。	目的意識をもって、考えながら話す・聞く児童。	自分の考えを明確に伝え、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えを深められる児童。	相手の意見を聞いて、良いところや同意できるところを取り入れたり、聞き手のことを考えて話し方を工夫して伝えたりができる児童。

<分科会仮説>

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会	あすなる分科会
目的を明確にした交流活動を設定し、話す意欲と方法の両面から系統的な指導の工夫をすれば、自分の考えを相手に伝わるように話すことができる児童が育つだろう。	自分の考えを明確にし、自分の考えと比べながら交流活動をすることで主体的に話したり、聞いたりする児童が育つだろう。	話の構成を工夫して話したり、交流活動を相互に評価したりすることで友達の考えをよく聞き、自分の考えを深めることができる児童が育つだろう。	一人一人にとって充実した活動を設定し、感想や成果などを短いやり取りで話したり質問したりすることを通して、自分の考えを深めることのできる児童が育つだろう。

<主題に迫るための具体的な手立て>

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会	あすなる分科会
<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の設定。 単元ごとに系統性をもち、ポイントを児童に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の設定。 主体的に聞く視点の提示。 筋道を立てて話す場の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の工夫。 自己評価、相互評価の活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を土台にして、話す意欲をもたせる。 表現の方法として、視聴覚機器等を活用する。 話す順序や資料の提示の仕方など、聞き手が分かるように伝える方法を考えさせる。

学校全体での取り組み

○1分間スピーチの場を設定

【テーマ】

低学年	中学年	高学年
・身近なこと ・経験したこと 例) 学校生活 家庭での日常生活 観察など	・関心のあること 例) 学校 家庭 地域など	・考えたいこと ・伝えたいこと 例) 学校 家庭 地域 日常生活など

【話型】

低学年	中学年	高学年
はじめ これから〇〇について話します。 なか だれが どこで なにを どうした。 理由 どうしてかというと・・・ なぜかというと・・・ 順序 まず・・・つぎに・・・ 1つめは・・・2つめは・・・ おわり 発表を終わります。	ラベリングを用いて話す。 「わたしが言いたいことは、〇〇 です。」から始める。 ナンバリングを用いて話す。 「第1に」「第2に」を用いて、 筋道をたてて話す。	これから「〇〇」について発表します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> まず～ テーマに沿った話 次に～ </div> これで発表を終わります。

○話すこと聞くことのポイントの指導

低学年	中学年	高学年
○話したいことを見つける。 ○順番を考えて、丁寧な言葉で話す。 ○相手を見て、大きな声ではっきり話す。 ○相手を見て、集中して聞く。 ○お互いにうなずいたり、感想や質問を言ったりする。	○筋道をたてて話す。 ・ナンバリングを用いる。 ・ラベリングを用いる。 ・接続詞を正しく使う。 ○主体的に聞く。 ・共通点、相違点に着目して聞く。 ・自分の考えを持って聞く。 ・質問や感想を言う。	○話の構成を工夫する。 ○相手意識をもつ。(言葉を選ぶ) ○相手に聞こえやすい声量や速度で話す。 ○抑揚や間の取り方を工夫する。 ○自分の考えと比較しながら聞く。 ○話し手の意図を考えながら聞く。 ○質問したり、感想を述べたりする。